

筑波大学消化器外科



現在、日本の死亡原因の3割はがんです。筑波大学消化器外科では食道、胃、大腸、肝臓、胆道、膵臓のがんを中心とした手術を年間550件行っています。そうしたなかで後期研修では世界的にトップレベルの筑波流手術方式と集学的治療を学んでいただきます。筑波流手術の特徴は正確な画像診断にもとづく進行度に対応した手術、出血が少なく侵襲の少ない手術、病態に応じた周術期管理などです。例を挙げると食道がんの患者でも8割が術後14日以内で退院しています。

加えて、他の大学と大きく異なる点は、後期研修医が術者、第一助手を数多く経験できることです。そのため、後期研修が修了するころには自分で画像診断ができ、手術、術後管理、合併症の治療ができる外科医になることができます。

当科ではがん治療のほか大腸良性疾患、肝・腎移植も行っています。また、研究をしてみたいという人には後期研修修了後、大学院に進学することもできます。消化器外科の大学院では臨床に直結するがん、肝再生、創傷治癒と栄養などのテーマで研究をしています。

外科に興味のある人、自分の外科手術を極限までブラッシュアップしたい人を待っています。

教授 大河内信弘



修練期間と関連病院は？

シニアレジデントとして2年、チーフレジデントとして2年の計4年間のうち大学病院と関連病院でおおよそ半分ずつ修練します。その後、クリニカルフェローとして大学病院で勤務を続ける場合もあります。

後期研修1年目は、原則的に大学病院または関連病院で消化器外科を中心とした外科ローテーションを行います。後期研修修了時までに、すべての消化器疾患に対して検査計画、治療方針をたてることができること、また外科専門医を取得することを目標としています。そのために術者として多くの症例経験を積むことができるように研修先の病院を決めています。

研修先病院（一部）



専門医、学位について

外科専門医 医籍登録後2年6ヶ月以内に修練開始登録を行った場合には医籍登録後5年経過時に認定試験を受験することができます。最低手術件数は350例で、術者としての120例の他に術者または助手として消化管および腹部内臓50例、呼吸器、心臓大血管、末梢血管、体表内分泌外科、小児外科、外傷、鏡視下手術各10例の経験が必要です。さらに学会発表も必要です。大学ならびに関連病院での後期研修中にすべて経験できるように配慮しています。

消化器外科専門医 3年以上の会員歴、臨床研修終了後、指定修練施設における通算5年以上の修練、450例以上の規定の手術経験、ならびに研究発表6件（うち論文3編）、学術集会・教育集会への出席が求められています。修練年限を考えると後期研修修了時に取得することは不可能ですが、申請条件に必要な実績を積むことは可能です。後期研修中に症例報告などの論文発表を行っておく必要があります。実際には卒業9-11年目に申請することが多いようです。

外科・消化器外科専門医養成コース 1日でも早く外科医になりたいという人たちのために平成22年度の初期研修から、「外科・消化器外科専門医養成コース」を新たに設けました。消化器外科のプログラムは、下記のようなモデルコースです。

1年目												2年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
消化器外科 (選択1)			呼吸器 外科 (選択1)			救急・麻酔			内科			内科			小児外科 (選択2)			循環器 外科 (選択3)			腺外 (地域ブロック1ヶ月) (選択3)			消外又は院外 (選択2)		

消化器外科は、一般外科から腹部臓器全般の専門的外科診療まで、広い範囲をカバーする領域です。そのため消化器外科医には一般外科の知識が必要不可欠です。現在の学会の制度でも、消化器外科専門医は外科専門医取得の後に続く、サブスペシャリティと位置づけられています。

当院の初期研修プログラムの特徴は、外科専門医取得のための症例経験を早期（2年以内）に積むことにより、3年目以降、消化器外科医としての修練に専念できるようになっていることです。希望者は消化器外科研修先として大学病院内もしくは院外（一般外科を含めて）を選択することができます。また、放射線科や病理診断科をローテーションすることも可能です。

学位 現在、大学院を履修して取得（課程博士）しています。常勤医として働きながら取得する方法（論文博士、夜間大学院）もありますが、学位の取得は難しいのが現状です。学位取得希望者には後期研修修了時の大学院進学を勧めています。過去10年間は38名の後期研修修了者のうち37名が大学院に進学し、28名が学位を取得しています。

あとがき

後期研修の概要をまとめてみました。筑波大学消化器外科には様々な大学（宮崎、山口、福井、杏林、昭和、群馬、山形など）の卒業生が集い、各自が志を持ち、切磋琢磨しながら研修に励んでいます。手術や検査の修練を積み、考え、責任ある診療ができる医師を目指しています。

現在、外科医の勤務環境は恵まれていると言えない部分もありますが、本当の実力をもった外科医の存在価値は今後ますます高まることと思います。筑波大学消化器外科での研鑽の日々は将来の糧になることでしょう。連絡をお待ちしています。



連絡先 筑波大学消化器外科
 担当：榎本剛史
 TEL：029-853-3221
 E-mail：eno@md.tsukuba.ac.jp